

ライフステージ	青年期(18歳以下)	領域	栄養・食生活
課題	食生活の乱れをなくしましょう(肥満・やせ予防)		

取り組みの内容			
<p>奈良市教職員研修において研修講座「学校教育での食育の進め方」を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 参加対象・・・全ての奈良市立小中学校教職員 ◎ 実施回数・・・年間3回 ◎ 研修内容 <ul style="list-style-type: none"> 食育の授業を参観した後、参加者による研究協議及び指導主事による指導講評を行い、成果と課題の共有を図れるようにする。 (例) 中学校の家庭科での「食育授業」 「食品の選択と保存」・・・毎日の食生活のために食品を適切に選ぶ方法を考えることができる。 ※ 食に対する関心を高め、よりよい食生活を進められるようにする。 <p>学識経験者による研修講座を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達段階をふまえた「食育教育の進め方」をテーマにした研修講座 ・朝食は、なぜ必要か ・肥満の状況 ～なぜ、肥満が問題か～ <p>奈良市教育協議会「食育推進部会」に全市立小中学校から各1名以上の教員が参加しました。</p> <p>平成24年度には、奈良市における中学校給食の導入をふまえ、学校給食を中心とした食育について研修を深めています。その中で、朝食の必要性やバランスのとれた食事のとりかたについても実践交流を図れるようにしています。</p>			

評価			
<p>新学習指導要領の総則に「学校における食育の推進」が盛り込まれており、栄養教諭及び栄養職員が中心となり、それぞれの学校園において「食育」の取組が進められています。</p> <p>小学校と中学校の教員が共に研修を行うことで、それぞれの課題や成果の共有を図ることができています。</p>			

課題			
<p>朝食をとることの大切さや、バランスのとれた食事を行うためには、教科や特別活動の時間を活用した食育の授業は、今後も継続し、充実を図らなければならないと考えます。子どもの発達段階に応じた課題を解決するために、今後も研修の機会を活用していけるようにする必要があるといえます。</p>			

ライフステージ	青年期(18歳以下)	領域	運動
課題	体力づくりをしましょう		

関係団体の取り組みの実施状況							
行政・関係機関が取り組むこと	医師会	薬剤師会	歯科医師会	生涯学習財団	地域教育課	保健総務課	健康増進課
個人にあった運動方法の普及	○						
楽しく安全に運動できる場や機会を増やす					○		
奈良市21健康づくり応援団を増やす (運動についての情報提供)	○	○	○	○		○	○

取り組みの内容
各中学校の体力テスト結果からそれぞれ課題を設定し、体育の授業改善、マラソン、部活動等、各校の実態に応じた推進計画を作成、年間計画とともに「体力向上推進プランニングシート」をまとめるとともに、その実践を行っています。

評価
平成23年度末の各学校による評価結果(中学校) ※数値は「1できた」「2ややできた」「3あまりできていない」「4できていない」の内、1と2の合計値
・平成22年度体力テスト結果と比べ、平成23年度は、自校の課題の改善ができたか。・・・77.3%
・設定した具体的達成目標は、平成23年度結果において達成できたか。・・・45.5%
・目標達成のための具体的取組は、適切に実施できたか・・・77.3%
・年間計画は適切に実施できたか。・・・86.4%
・体力向上推進の取組は、学校全体の取組として定着を図ることができたか。・・・68.2%

課題
継続的な取組の実施により、改善が見込まれます。

ライフステージ	青年期(20歳以下)	領域	喫煙
課題	未成年者の喫煙をなくしましょう		

健康指標の推移

項目		ベースライン値	中間値	最終値	目標値	最終評価
中学3年生の喫煙率	男子	7.2%(県)	6.5%(県)	県民調査時	0%	—
	女子	2.8%(県)	2.3%(県)	県民調査時	0%	—
中学3年生喫煙者のうち吸い始めが小学校4年生以下だった人の割合	男子	23.8%(県)	23.5%(県)	県民調査時	0%	—
	女子	20.6%(県)	18.6%(県)	県民調査時	0%	—
公共の場や事業所の禁煙実施施設の割合		20%(県)	—	—	100%	—

最終評価の数値が把握できていませんが、中学3年生の喫煙率は減少しています。吸い始めが小学生4年生以下だった人の割合は横ばいで、低年齢から喫煙を始める傾向に変化は見られませんでした。

関係団体の取り組みの実施状況

行政・関係機関が取り組むこと	医師会	歯科医師会	薬剤師会	保健給食課 学校教育課	環境政策課	保健総務課	健康増進課
就学前後からの禁煙防止教育の推進や強化を図る	○						○
関係機関と連携し、未成年向けの禁煙相談など禁煙支援の充実を図り、情報発信を強化する(禁煙支援機関・インターネット・携帯メールによる禁煙方法など)	○						○
学生への禁煙支援の強化	○						○
禁煙支援窓口の設置	○					○	○
再喫煙防止のため、禁煙支援プログラムの紹介を積極的に行う	○						○
禁煙支援ネットワークづくりの推進	○						○
禁煙をサポートしてくれる人を増やす	○						○
しみんだよりやマスメディアなど通じて受動喫煙防止の正しい情報を伝える	○						○
禁煙推進事業の啓発の充実を図る(世界禁煙デーなど)	○	○	○			○	○
公共の場や教育施設の禁煙化を徹底	○	○		○			○
事業所の禁煙化を推進	○						
路上喫煙やポイ捨て禁止を徹底	○				○		
奈良市21健康づくり応援団を増やす(禁煙支援機関・お店や施設の禁煙化・健康づくり情報の提供)	○		○			○	○

取り組みの内容

奈良市立学校敷地内においては、平成19年4月1日より子どもの受動喫煙、未成年者の喫煙を防ぐとともに、職員の健康を守るため、全面禁煙としました。平成21年には奈良市路上喫煙防止に関する条例を制定、路上喫煙禁止地域ができ、罰則規定も定められています。また、市では、21健康づくり応援団に「分煙」は含めず「禁煙」のみに統一し、禁煙施設の登録と啓発をして増加を図るなど、受動喫煙防止の環境が広がりました。生徒や保護者向けの喫煙・受動喫煙防止教育を、学校医や学校薬剤師、養護教諭、健康増進課等で実施しました。

評価

学校敷地内においては、全面禁煙の徹底が図られていると考えています。しかし、正確な数値はありませんが、市民からの公共の場の禁煙化を求める声はまだ聞かれ、禁煙化の更なる推進が求められている状況と考えます。

課題

学校敷地外に出た職員の休憩時間の喫煙等マナーやモラルの問題が残っています。受動喫煙防止の環境整備に今後も重点を置き、公共の場の禁煙化の更なる推進を図ります。

ライフステージ	青年期(18歳以下)	領域	歯の健康
課題	むし歯・歯周病を予防しましょう		

健康指標の推移					
項目	ベースライン値	中間値(17年度)	最終値(22年度)	目標値	最終評価
中学生のむし歯未処置者の割合	24.4%	22.1%(県)	23.6%(県)	減少	○

関係団体の取り組みの実施状況						
行政・関係機関が取り組むこと	歯科医師会	薬剤師会	歯科衛生士会	歯科技工士会	学校教育・保健委員	健康増進課
「8020運動」を啓発・推進	○	○	○	○		○
むし歯・歯周病予防についての情報発信	○	○	○		○	○
正しい知識や噛むことの大切さを普及・啓発	○	○	○	○		○
正しい歯みがき方法を普及・啓発	○		○			○
フッ化物をとり入れたむし歯予防を推進(フッ化物入りの歯みがき剤・フッ化物塗布など)	○		○			○
かかりつけ歯科医を推奨し、歯の健康管理の基盤づくり、健康管理体制整備、機能維持に努める	○		○			○
奈良市 21 健康づくりの応援団を増やす(歯の健康についての情報提供)	○	○				○

取り組みの内容
歯っぴいフェスティバルは、関係機関と協働で開催しました。

評価
中学生のむし歯未処置者の割合が減少することで、青年期(18歳以下)の口腔内が改善していると思われます。

課題
自分の口腔内に関心もてるように内容等関係機関と調整を図り、歯っぴいフェスティバルの参加者の増加を図ります。

ライフステージ	青年期(18歳以下)	領域	妊娠と性
課題	望まない妊娠や性感染症を予防しましょう		

健康指標の推移

項目	ベースライン値 (H13)	中間値 (H17)	最終値 (H20)	目標値	最終評価
10代の人工妊娠中絶実施率(人口千対)	12.1(国) 5.5(県)	8.7(国)	8.8(国) 4.6(県)	減少	◎
10代の性感染症の罹患率 性器クラミジア感染症(人口10万対)	定点医療機 関報告件数 5,697(国) 40(県)	6,198(国)	3,214(国) 10(県)	減少	◎
淋菌感染症(人口10万対)	定点医療機 関報告件数 1,668(国) 23(県)	2,189(国)	830(国) 4(県)	減少	◎

10代の人口妊娠中絶数、10代の性感染症の罹患率、淋菌感染症、全てにおいて実施率、患者数が減少しています。

関係団体の取り組みの実施状況

行政・関係機関が取り組むこと	医師会	助産師会	学校教育課	保健予防課	健康増進課
関係機関と連携しながら、性についての正しい知識を普及する。	○	○		○	○
性教育に関わる人とのネットワークづくりを行う。	○	○		○	○
奈良市21健康づくり応援団を増やす(性感染症などについての正しい情報提供)	○	○			○

取り組みの内容

平成13年から「命の大切さと共に、思春期に関する正しい知識を伝えたい」と願う助産師・看護師のグループを奈良県助産師会が立ち上げ、学校や保護者、教職員への出前講座を行ってきました。その活動が徐々に広がりを見せています。健康増進課と保健予防課でHIVを中心とした「中学生向け性教育媒体資料集(CD-R)」を作成し、中学校等へ貸し出しを行っています。

評価

思春期の性教育は以前に比べ進みました。その結果、性感染症も減少しています。しかし、10代での望まない妊娠はなくなることから、妊娠や性感染症の予防教育にとどまらず具体的で幅広い性に関する教育を今後も継続して進めていく必要があると考えます。

課題

これまで慎重に扱われてきた思春期の性教育に関して、現在の取り組みを継続していくとともに、学校、行政、医療専門職が相互に連携を取り合いながらすすめていく必要があると考えます。またより専門的な情報提供や支援が受けら得るように関係機関同士のネットワーク作りや相談窓口の充実についても検討していく必要があります。